

2021.11.25 (木)
第15回例会
(通算3642回)

2020-2021年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン『我がロータリーを楽しむ。我が地域を育む。』

第85代会長 杉村 莊平
副会長 浅川 正紳
幹事 市橋 多佳丞
編集責任者 クラブ会報雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30～13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町5-3 ミツ輪ビル2F
☎ 0154-24-0860 ☎ 0154-24-0411

2021-2022年度
国際ロータリーテーマ



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

2021-2022年度
RI会長 シェカール・メータ
第2500地区ガバナー
漆崎 隆 (釧路ベイ RC)

月間テーマ	ロータリー財団月間
本日のプログラム	鉄道高架と都心部まちづくり計画について (担当：プログラム委員会)
次週例会	年次総会 (担当：理事会)

- ロータリーソング：それでこそロータリー
- ソングリーダー：小野 正晴君
- 会員数 103名
- ビジター なし
- ゲスト 釧路市都市整備部都心部まちづくり担当部長 山中 広徳様
釧路市都市整備部都心部まちづくり推進室室長 吉岡 亨様

会長の時間

杉村 莊平会長

皆さん、こんにちは。めっきり寒くなってきて11月も終わりになりました。早いもので令和3年もあと1カ月というところでして、皆さんでこれから良い年越しをしていきたいと思っております。



2週続けて開催をしてきました『85周年記念例会』も皆さまの多数のご出席をいただきまして盛会に終わることができました。本当にありがとうございました。85周年が終わって、私の会長挨拶もそれにちなんで「会長挨拶・歴史編」ということでやらせていただきましたが、もう1～2回お付き合いをいただければと思っております。

今日は、先日の吉田潤司さんのご挨拶にもありましたけれども、柳田さんという方がいらっしゃいまして、その方のお話をさせていただければと思っております。

これまで釧路クラブでは、嵯峨さん・清水先生・小船井さん・吉田潤司さん、そして両角克治さんを入れれば5名のパストガバナーがいらっしゃいますが、実はその他に2名の正式なガバナーノミニーがいたことをご存じでしょうか。先週、吉田潤司さんも少しお話を

されましたけれども。

お1人が両角靖二さんでした。家庭の事情でノミニーの時にご辞退されております。もし、ガバナーをされていたら親子二代のガバナーになるところだったのですが、残念ながらご辞退をされています。

もう1人が、柳田一さんでございます。僕がいろいろ資料を調べて見ていると、その時代・時代に釧路クラブには、ミスターロータリー的な方がおりまして、その初代が、以前に少し話しました三原さんかなと。二代目がこの柳田さんかな、と考えておりました。資料を見ていると、当時の記念例会になると必ずといって良いほど柳田さんが登場して、ロータリーの話がされているところを記述で見えておりました。

柳田さんは、大正6年に根室でお生まれになり、昭和28年に釧路トヨタ自動車を設立されました。釧路管内法人トップクラスの企業に成長させます。その当時、その経営手腕を見込まれていろいろな所から経営参加の申し込みがあったようですが、釧路トヨタの経営に全力投球をすることが地域社会の発展のためになるという信念の下、釧路トヨタ一本で頑張ったという記述も残されております。

昭和30年に釧路クラブに入会されまして、45年にクラブの会長をされております。そして、昭和53年8月にガバナーノミニーのままご逝去となっております。その時のご葬儀では弔辞を村上祐二さんがされておりました。僕の毎回の挨拶ではよく追悼文を拝借す

るのですが、今回もこれが良い弔辞なものですから、少し紹介させていただきます。とても人柄が偲ばれるところがありますので、ぜひお聞きいただければと思います。

柳田一さんへ 村上祐二さん弔辞

わが釧路クラブに君が入会されたのは、いまから23年前の1955年7月14日でありました。姿勢温厚、円満なる人格と天性聡明にして努力勤勉家の君は、会員一同の敬慕的でありましたが、数年ならずしてロータリーの神髄を究めこの7月よりはじまる本年度ガバナーノミニに推挙されたのであります。ロータリアンとして最高の名誉であるガバナーとして会員一同は、君の大活躍を期待申し上げておりました。然るに、20年間も連続100%出席という記録を持つ健康体の君に突然病魔が襲い、去る5月、東京国立病院に入院の身となりました。

私が、病院へお見舞いに馳せ参じた時は、手術直前の7月2日のことでありました。その時、私は「まだまだ君は若い、せめて私の歳まで後25～26年は頑張ってくださいよ」と申しますと、大きく頷いておられました。

君がクラブへ残された功績は数多く、枚挙にいとまがありませんが、70年・ロータリー創立50周年の会長としての記念講演、73年・クラブ創立37年の講演、75年・ロータリー創立70周年の記念講演など、会員の啓蒙に務められた幾多の教訓は、クラブの歴史とともに永久に残されることと信じてますが、特に君の会長としての最後のスピーチであった「ロータリーが好きになるは」と題する5つの要綱は君の遺言と心得、反復励行を怠らぬよう心がけていきたいと存じます。君は、かつてわれわれに「ひとつの商品をお客に売る時には『商品+満足』を売り、代金を受け取る時には『代金+感謝』を受け取るもの。1個の取引に伴う当事者の心と心の交流に着目して、ロータリーはこれを奉仕と呼ぶ」と教えてくれましたが、君自身がその良き実践者でした。君はまた口癖のように「ロータリーは本当に楽しい。ロータリーをもっと広く人々に知ってもらいたい」と言っておられました。本当にロータリーを愛し、楽しみ、ロータリーを通して、その奉仕を徹底された半生を生き抜かれました。

という村上さんの弔辞でございますが、ここに出てきました柳田さんの『ロータリーを好きになる5箇条』を調べてみましたので、これをご紹介します。終わりにしたいと思います。

1. まずロータリーを知ること。
2. クラブメンバーと親しみ合うこと。
3. 一役、持つこと。
4. 卓話や会報に積極的に参加すること。

5. 家族ぐるみのお付き合いをすること。

と残されております。

これを見ますと、やはりロータリーというのは、あまり難しく考えずに、自ら親しみ楽しんでいくことが入り口一番だだと思います。これだけロータリーをやられた方がそれを言うのですから、やっぱりそうなのだと思って弔辞を拝見させていただいておりました。

話は変わりますが、釧路は最近、良いお話がありませんけれども、釧路100年の計ということで、いよいよ鉄道高架が動き出していると聞いております。鉄道高架に限らずこの機会にぜひ『釧路のまちづくり』について考える機会として素晴らしいことだと思ひ、今日の例会を楽しみにしております。どうぞよろしく願いいたします。

幹事報告 市橋 多佳丞幹事

皆さま、こんにちは。幹事報告をさせていただきます。

冒頭に、例会案内並びに出席記入表を皆さまへ配布が遅れましたことを私からお詫び申し上げます。申しわけございませんでした。

また、『家族例会』のご案内が届いていると思いますが、昨日11月24日が返信期日となっております。この場で教えていただける方は、私もしくは青島事務局員、瀧波委員長まで例会終了時にお伝えいただければと思います。どうぞ協力をよろしくお願い申し上げます。

他クラブの例会につきましては、お配りした例会案内をご一読ください。

私からは以上となります。

■本日のプログラム■ 鉄道高架と都心部まちづくり計画について

クラブ運営委員会 中島 徳政委員長



中島でございます。本日のプログラム、『鉄道高架と都心部まちづくり計画について』ということで、釧路市都市整備部都心部まちづくり担当部長山中 広徳様、都市整備部都心部まちづくり推進室室長吉岡 亨様をお願いしております。短い時間ですがよろしく願い申し上げます。

釧路市都市整備部都心部まちづくり担当部長

山中 広徳様

皆さま、お疲れ様でございます。釧路市都市整備部

都心部まちづくり担当部長のやまなかでございます。本日はこのような説明の機会を作ってくださいまして大変ありがとうございます。

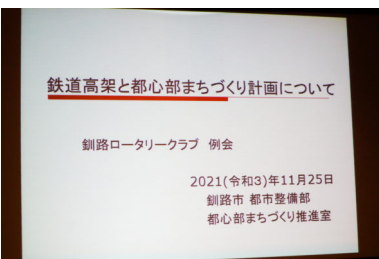


今日は、釧路都心部のまちづくり計画についてご説明をさせていただきます。これは、釧路駅を中心とします都心部を釧路市の顔としまして、また東北道の玄関口として市民の皆さんと民間の事業者の方々、そして私ども行政がこの将来の姿を共有して、連携をしながら活性化に向けて取り組んで行くための指針でございます。今年3月に策定をいたしました。

この計画は、3つの柱からなる事業構想として、1つ目が鉄道高架事業、2つ目が新たな道路ネットワーク、3つ目が土地区画整理事業です。この後、吉岡室長から詳しくご説明をいたしますけれども、私からはこれらの事業の必要性について簡単にご説明をさせていただきます。

現状の都心部の課題といたしましては、交通ネットワークの観点、それから賑わい創出の観点、それぞれ課題があると認識をしております。

まず、交通ネットワークの観点です。現状、都心部は鉄道で南北に分断をされておまして、南北の往来はいま駅の西側にあります北中跨線橋、東側にあります旭跨線橋の2カ所に限定をされておまして、都心部はアクセスしにくい場所になっております。この2



つの跨線橋は供用をしてから50年から60年経っております。近い将来、更新時期を迎えようとしております。今後、多額の費用をかけて

新しく架け替えをしたとしても、また次の50年間、南北市街地が分断をされた状況が変わらずに都心部は相変わらずアクセスしにくい場所のまま残ってしまうこととなります。

また、賑わい創出の観点では、釧路では市街地がどんどん郊外へ分散して行って人口そのものも減少しております。そういったことによって現在の都心部は、かつての賑わいがなくなっている状況です。こうした課題を解消するために鉄道高架事業、それから土地区画整理事業を実施することによりまして市街地の分断が解消され、交通の円滑化が図れます。また高架下の空間の活用や釧路駅の周りの広い鉄道敷地を有効に使うことによって、駅周辺の土地を再編して賑わいを創出していきたくて考えております。具体的に言いますと、

駅前に集客効果のある公共施設を持ってきて、それと一体となるように人が集まるような広いオープンスペースを配置しまして、それを呼び水として周辺の区画に民間のマンションや商業施設・ホテルなどを誘致していきたくて考えております。

現在、鉄道高架の実現に向けまして、関係機関との協議や概略の検討を行っている段階として、今後、国の採択を経まして事業が着工をして完成するまで、まだまだ相当な年数がかかってしまいますけれども、まずは市民の皆さんにこのような計画を理解していただくことが重要と考えておまして、今日のような説明の機会や、12月には市民フォーラムの開催も計画しておりますので、そのようなことをとおして気運の醸成に務めていきたくて考えております。

本日は、限られた時間ではございますけれどもどうぞよろしくお願いいたします。

釧路市都市整備部都心部まちづくり推進室

室長 吉岡 亨様



続きまして、私の方から計画の詳しい内容について説明をさせていただきます。

皆さん、鉄道高架のイメージをどのようにお持ちでしょうか。単純に駅が高架になるというわけではなく、大きなコンクリート製の橋を架けてその上に鉄道を走らせる。これが鉄道高架というものになります。

では、どうしてこのような時代、このような釧路市を取り巻く環境が大変厳しい時代の中で、そのような大きな公共事業を行うのか。そして、どうして今なのか。皆さんは、結構疑問に思われる方も多いと思います。釧路市では、鉄道高架そのものをつくるのが目的ではなくて、鉄道高架を基本に都心部の街をつくり替えていくことが今回のわれわれの計画の大きなポイントとなります。

現状の釧路市の都心部は、人口増加の時代、人が増えて自動車交通がどんどん増えて、渋滞や円滑な交通を妨げないように道路を大きく作ったり、いろいろな道路を優先としたまちづくりを行ってきました。もちろん、そのようなまちづくりは、釧路の発展に大きく寄与してきました。

ただ、社会情勢の変化があって、人口の減少と自動車交通量もどんどん減ってきて、その社会基盤整備が少しずつ時代に合わなくなってきました。そこを今回の計画でつくり替えていくことが鉄道高架ということでございます。

今日は資料を用意しましたがポイントを絞って説

明をしていきたいと思ひます。

まず、このスライドをご覧ください。いま私が説明をしたとおり、1945年（昭和20年）の時代、釧路市の人口はわずか8万人に過ぎませんでした。その後、水産・石炭・紙パルプと高度経済成長期に併せて産業がどんどん進展をした結果、人口が倍増し、20年後の1965年（昭和40年）には、あっという間に人口が20万人を突破しました。

その間、釧路市のまちづくりは、自動車交通優先として、そこに記載をしておりますように1961年（昭和36年）に現在の釧路駅が開業しました。それに併せて、今の北大通、この時点では、まだ狭い北大通でした。今日ご参加の皆さまの中にも狭い時代の北大通をご存じの方もいらっしゃると思ひます。それを今のような大きな幅員30mに達する北大通の拡幅の工事が始まった。また1963年には、旭跨線橋を架けた。1973年には、北中跨線橋を架橋した。つまりこの時代はまさに自動車交通優先を基本としたまちづくりを行ってきました。

その後、人口のピーク・昭和55年に約23万人を迎えて、その後人口がどんどん減少することになるのですが、まだ当時の想定では人口は伸びていくだろうという予測があって、平成元年に釧路市として第一期の鉄道高架事業の検討に入ったところ。この第一期では、なんと将来の予測人口が30万人を突破するという想定の中で、いまの跨線橋も渋滞が発生して持たない。跨線橋を架け替えるか、もしくは鉄道を上げてその下に道路をつくるのか。そこから鉄道高架の検討がスタートしてまいりました。

ただ、釧路市の場合、帯広市などと違って、早い時点で踏切ではなく跨線橋で整備をしていたこともありまして、渋滞が発生しない、車はソコソコ円滑に流れることもありましたので、この第一期の検討は、一旦ここで中断をして、次の第二期の計画に移ってまいります。

第二期の計画では、そろそろ人口減少が見えてきたこともありまして、車優先だけではなく、都心部に必要なまちづくりとはどのようなものなのかを検討したのが第二期の計画になります。ご記憶がある方もいらっしゃると思ひますけれど、平成19年にAプラン・Bプランで凍結をしました。これが第二期の検討に当たります。

今回、われわれが計画をしていることが、この第三期目。まさに人口減少が分かってきた。釧路市の場合、持続をしていくためにコンパクトなまちづくりの推進、お話を聞いたことがあると思ひますけれど、要は広がり過ぎた街を少しずつゆっくりにゆっくりに市内8つの拠点に市民の方を誘導していくことで、都市を維持する、コストを下げていくことと、その拠点間を公共交通で結ぶことで、高齢化による自動車免許証の返

納などに対応するまちづくりを行っていくというところをいま釧路市では進めておりますが、この鉄道高架の計画もまさにこの都心部という1つの拠点を将来的に市民の方にここに住んでいただく、また観光やお仕事をされる方が交流としてここに訪れてくれる、そのような人と公共交通を中心とした街に変えていきたい。これがわれわれの計画の大きな中身となります。

ここに、2枚の象徴的な写真があるのですが、左側が昭和50年代の北大通。沿道には、デパート丸三鶴屋があり、様々なデパートがあって、車も混雑して、人も多く歩いている。右側が同じ場面から見た令和時代の北大通でして、この都心部は人口の減少・街の拡大、様々な要因によってかつての人の賑わいがなくなっています。

現在の道路網は、先ほど私が説明をしたとおり、自動車交通優先につくられたところがあるものですから、朝と夕方のラッシュの時間、車は大変流れます。但し、その他の時間はほとんど車が通っていない状況になっています。また、約50年前に整備をした社会基盤の老朽化や津波災害のリスクが高まっている状況になります。

では、どうして自動車交通優先なのかを簡単に示した図表を作っています。左側に釧路駅前や北大通に流入をする通過交通を示しております。

ここでの通過交通という言葉は、この都心部に用事がなく別な目的地に移動をするため都心部を通り抜けるだけの車、とご理解ください。その通過交通は、まず東西が、旭橋から駅前を通過して国道に合流をして、そのまま西側へ向かう交通。これが約1日1万台あります。駅前を通過することで、駅と北大通は分断されている。また、南北の通過交通については、幣舞橋を通過して北大通を直進して、途中右側に旭跨線橋へ向かう道路から旭跨線橋へ向ってただ通り抜ける車が、北側へ行き、釧路町の方へ行くような交通が1日あたり1万台から2万台存在しています。

市としましては、この都心部を人と公共交通中心の空間に変えていくためには、この車の流れをどのように変えていくのかがわれわれの大きな検討の材料となっております。そこをどのようにしていくのかを後ほど詳しく説明をいたします。

資料の右上を見てください。先ほど説明をしたとおり、北中跨線橋も旭跨線橋も整備を終えてから約50年が経過しています。一般的に土木構造物・道路・橋・トンネルなどは、50年を耐用年数として設計・計画・施工をしています。ですから2つの跨線橋とも、そろそろ架け替えの時期が迫っている。もちろん、釧路市



としては、延命化を図っていく努力はしていきますが、いつかの時点で必ず架け替えをしなければいけません。今この鉄道高架を検討しておかないと、いつかの時点で「はい、架け替えます」となった時に「そのまま新しい橋で架け替えますか」となってしまう可能性があります。ですから今からこの鉄道高架の検討を進めておいて、その架け替えのタイミングの時期を睨みながら新たなまちづくりにつなげていきたいのが釧路市の考え方でございます。

右下に大津波のお話がございます。想定が少し古いですが、平成24年6月に北海道が公表した大津波の想定によりますと「都心部は、5m以上10m以下の津波が襲う」と。この都心部は、東側を釧路川、西側を新釧路川で、南北は鉄道で分断されている陸の孤島という所にありますので、通常は非常に交通の便が良い場所ですけれど、何かあったら陸の孤島になって



しまいますので、鉄道を上げて、下に道路がつくりやすくなると、南北の移動の活性化、何かあったら避難できる道路網を併せて考えていく

ことが釧路市の考え方でございます。

最初に、私が説明をしたとおり、都心部の通過交通をどのように都心部から遠ざけていくのかの説明をさせていただきます。

現状の都心部は、左の図をご覧くださいとおり、北大通・旭橋駅前通・共栄新橋大通があって、大部分の自動車は都心部を目的地とするのではなくて、通過をするために都心部の赤いエリアに入って行って抜けていくだけという状況になっています。これを変えていくためには、右側の都心部環状道路（緑の太線で表示をしております）に道路を大きくつくることによって、都心部に用事がない車は中へ入る前にその環状道路を通してそれぞれの目的地へ向かってもらう。そうすることで、この都心部内のエリアの中に通過を目的とした交通が減少しますから、そこを上手く活用して人と公共交通が中心の空間につくり替えていくのが釧路市の考え方です。

ただし、誤解をしていただきたくないことは、全ての車をこの都心部の中に入らせないわけではありません。これまでどおり都心部に用事がある車は、どうぞ車の中へ入って駐車場に止めて、お仕事に行かれ、お買い物をしてください。ただし、通過を目的とする車には、環状道路を抜けてそれぞれの目的地へ進んでください。これが釧路市の考え方でございます。

では、具体的にどのような道路網を考えていくのかです。太いピンクの線が、市が考える都心部環状道路でございます。幣舞橋を通過して北洋銀行の交差点、

国道38号線と44号線の交差点からそれぞれ目的地へ向かっていただいて、通過をする車は抜けていただきます。北中跨線橋と旭跨線橋は、現在の位置で道路を平面化します。まず、1カ所と、この2カ所です。それと、ここに柳町公園大通という三十間道路、大変幅員が広い道路がありますが、そこに新たに道路をつくって、このようなルートで都心部へ入りやすくしていきます。ここは人も車も通れます。

次に、市役所横通、和商市場の西側の道路。ここは、いま道路はありませんが、新たに鉄道を上げることによって道路をつくって、ここも人も車も通れる道路にすることによって、いまよりも自動車も人も都心部にアクセスしやすい道路環境ができてくると考えています。ただし、この北大通と共栄新橋大通の道路の繋ぎ方ですが、そこを繋いでしまうと、先ほどから説明をしております通過交通がここに集中してしまい、都心部の空間が人と公共交通中心の空間にはならないということが分かってきましたので、ここに関しましてはバス専用道路という形で釧路市では考えています。ただし、歩行者の方はここを最短で移動ができるように新たに歩行者専用道路をつくっていきます。

では、具体的に道路網を見ていきたいと思っております。この道路の西側に北中跨線橋の道路があります。先ほど言った市役所横通ここに1本、それから三十間道路から1本、ここは人も車も通れます。この小さな道路は、交通広場といってタクシープールや駐車場へアクセスする道路をつくっていきます。北大通と共栄新橋大通は、真っ直ぐ繋いで、人は最短距離で南北を移動できるようにする。この道路につきましては、バス専用ということで、高架下にバスターミナルを設けてここは公共交通優先。公共交通の利便性を上げていくのが釧路市の考え方でございます。

今後のスケジュールについて、簡単に説明をいたします。今年度から概ね3カ年をかけて、鉄道高架・街路整備・土地区画整理の概略設計を進めていきます。その後、国との着工準備の採択と協議に入りまして、国から「よし、釧路の鉄道高架をやれ」というお話があれば、さらに5年間の詳細設計について、市としては最短で8年で工事が着手できるように今後も鋭意努力を進めていきたいと考えております。

ロータリークラブの皆さんには、これからも引き続きご支援ご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

以上で終わります。

会長謝辞

山中部長、吉岡室長、今日はお忙しいところをありがとうございました。聞くとお忙しいところによればこれから議会が始まるというお忙しいときに足をお運びいただきましてありがとうございます。

います。

僕は不動産屋でして多少、都心部に関わりが強い不動産でございます。話せばキリがありませんが、最近、都心部で貸店舗を行うと、昔はちょっと家賃を下げると多少でも反響がありましたが、うちの力不足・営業努力不足もあるかもしれませんが、本当にここ1～2年は都心部に対する反響がないのです。若い人からすると、「北大通で何をするの」という感覚があるように思えてなりません。僕らとしたら都心部について「待ったなし」じゃないかという思いを強く持っております。

先ほど、100年の計とありましたけれども手遅れになる前に市役所さんも頑張っていたいただいていると思いますが、山田支社長もいらっしゃいますし、JRさんともご協力をいただきながらできる限りスピーディーに行っていただくことと、われわれも他人ごとではなく、市民としてしっかりとここにコミットして、より

良いものを。他都市に比べると少々周回遅れの高架になってしまっていますが、「遅い分、素晴らしいものができた」となるようにわれわれもしっかりコミットして参加をして行っていきたいと思います。

これから寒い時期になってまいります、お身体に気を付けていただきまして、釧路のためにぜひ頑張ってくださいと思います。

どうぞ、これからもよろしく願いいたします。ありがとうございました。